

石川雲蝶

新潟県魚沼市

鬼退治仁王像(西福寺)





書院障子 [三保の松原]

雪国の山間地方では見ることができない海辺の美しい景色を、雲蝶は座敷の障子越しに再現して見せた。



鬼退治仁王像

開山堂内の階段両脇に立ち、開山堂を守護する仁王像は、高さ2メートル余りのケヤキの1本彫り。全身に木目が波打つ様は、今にも動き出しそうな迫力がみなぎる。



孔雀遊戯の図 / 襖絵

襖の中央に大きく描かれた1羽の孔雀と牡丹が印象的な襖絵。本堂と室中(しっちゅう)の間を仕切る襖に描かれている。不老長寿の園に通じる橋「石橋(しゃっきょう)」がこの絵の主題。「辛酉」の年号と「匠雲蝶正照」の署名がある。



開山堂

幕末1、857(安政4)年、大龍和尚によって建立された西福寺の開山堂。天井から欄間、壁面に至るすべてが雲蝶の作品で埋めつくされている。完成までの6年間、雲蝶は夫となり父となり愛する家族を得てさらに技に深みが増してゆく。ここは、大龍和尚が思い描き、雲蝶が形作った仏の世界である。

西福寺 (開山堂)

さいふくじかいさんどう

雲蝶終生の大作といわれる

開山堂の作品群は

「越後日光開山堂」の異名を持つ

新潟県指定有形文化財

曹洞宗の名刹・西福寺は約五百年の歴史を持つ。江戸時代、その功績から天皇家より菊桐紋を許されている。

「越後日光」とよばれる開山堂には、雲蝶が手掛けた彫刻・絵画・漆喰細工の数々が所狭しと配され、その作品のすべてが新潟県指定有形文化財となっている。

この開山堂は、「仏の教えが、雪深く、貧しい農村地域の人々の心を救う」という信念の基、当時の住職・大龍和尚によって建立された。雲蝶はその意図をよく理解し、老若男女が集い開祖道元禅師の教えに触れることができる空間を見事に作り上げている。中でも、堂内の天井・三面に施された彫刻「道元禅師猛虎調伏の図」は雲蝶終生の大作と言われ、息をのむ迫力だ。

彫刻師として有名な雲蝶だが、その才能は多種多彩にわたる。本堂には襖絵・書院障子の組子細工があり、開山堂には漆喰細工・壁画などの様々な作品を残している。



西福寺 (開山堂)

<http://www.saifukuji-k.com/>

- 〒 魚沼市大浦174
- 時 9時～16時(受付終了15時40分)
- ¥ 大人500円
- 🚗 上越新幹線浦佐駅からタクシー約10分、開越自動車道小出ICから車約5分
- ☎ 025-792-3032 西福寺(開山堂)

※季節・催事などにより変更する場合がございます。ご了承ください。

魚沼市

りゅうこくじ
龍谷寺

南魚沼市

雲峰・八海山のもとにたたずむ曹洞宗の名刹・龍谷寺。観音堂はインドグプタ王朝の様式が取り入れられ、独特な雰囲気を持っている。雲蝶作品の見どころは、中国の想像上の動物とされる「狼(ばく)」や「麒麟(きりん)」、雲蝶が好んだという「唐獅子」と「牡丹」が彫られている本堂の透かし彫りの欄間は見逃せない逸品。



所 南魚沼市大崎3455
開 9時～16時
（予約をすれば住職が可能な観音で対応）
料 300円
備 寺の行事期間中、それ以外は公開
交 上越新幹線浦佐駅から車約15分、関越自動車道六日町ICから車約13分
☎ 025-779-2020（龍谷寺）

あなちじゅうにだいまょうじん
穴地十二大明神

南魚沼市

穴地地域(南魚沼市)の鎮守である穴地十二大明神。この神社には、向拝の部分に龍と二頭の獅子が彫られているほか、手挟みには竹と虎、松と鷹と雀が彫られている。また、欄間には源頼光の大江山の酒吞童子退治と源頼政の鶴(ぬえ)退治が未完成のまま残されている。



所 南魚沼市穴地
☎ 025-783-3377
交 上越新幹線浦佐駅から車約20分、関越自動車道小出ICから車約15分

ちょうおんじ
長恩寺

南魚沼市

江戸時代の文人で「北越雪譜」の著者・鈴木牧之。牧之の実家は幕末に「薄荷屋(はっかや)」を営んでおり、その立て看板には雲蝶作の豪華な彫物が施されていた。後年この看板は解体されたが、1890(明治23)年に長恩寺の牌堂改修の際、牧之の菩提寺でもある長恩寺に寄進され、堂内の装飾に使われたという。



長恩寺 ※非公開
薄荷屋の看板装飾・牌堂装飾

ほんじょうじ
本成寺

三条市

鎌倉時代に創建された、法華宗の総本山。雲蝶が江戸から越後に入るきっかけとなった寺。本堂や塔頭(たっちゅう)寺院の彫刻に腕を振るったが、1893(明治26)年に焼失した。現在、その難を逃れた作品と彫刻群が本成寺と山内寺院に現存する。本成寺墓所には雲蝶の墓が建ち、塔頭・蓮如院には、位牌が祀られる。



所 三条市西本成寺1-1-20
開 9時～17時
本成寺事務所へお尋ね下さい。
料 雲蝶彫刻拝観 500円
(パンフレット付)
交 JR信越本線三条駅から徒歩約20分、北陸自動車道三条燕ICから車約15分
☎ 0256-32-0008(本成寺)
0256-33-1754(三条雲蝶会)

いするぎじんじや
石動神社

三条市

地元の人から「吉野屋の権現様」と呼ばれ親しまれてる石動神社。火災で焼失した拝殿を再建するため、本成寺の世話役の一人で吉野屋の庄屋・木原家が雲蝶に依頼。向拝を飾る龍の彫刻や拝殿欄間、脇障子、天井画、十二支彫刻といった、晩年の傑作が数多く残されている。



所 三条市吉野屋
開 拝観の際は事前連絡が必要
交 JR信越本線東光寺駅から徒歩約30分、北陸自動車道三条燕ICから車約30分
☎ 0256-33-1754
(三条雲蝶会)

ずいしょうあんにおうぞう
瑞祥庵仁王像

湯沢町



湯沢町にある曹洞宗の瑞祥庵。この寺院の桜門には、雲蝶入魂の技による二体の仁王像が安置されている。残念ながら色彩に関しては、後世になってから一部塗り替えられており、雲蝶本来のものとは異なっているが、その造形の美しさ、迫力は圧巻。

所 南魚沼郡湯沢町大字土樽4595
開 冬期間は雪囲いのため鑑賞不可能
交 JR上越線越後中里駅から徒歩約12分、関越自動車道湯沢ICから車約10分
☎ 025-785-5505(湯沢町観光協会)

新潟県 石川雲蝶
ガイドマップ

日本のミケランジェロと称される石川雲蝶は、県内各地に多くの作品を残しています。



一般社団法人 **魚沼市観光協会**
〒946-0075 新潟県魚沼市吉田1144
TEL.025-792-7300 FAX.025-792-7200
http://www.iine-uonuma.jp/
E-mail:kanko@iine-uonuma.jp

※本冊子に掲載されている情報は2020年3月現在のものです。変更になることもありますので、お出かけの前にご確認ください。

雲蝶の人物像

神業的な作品から思いをめぐらす雲蝶像

1814(文化11)年、江戸の雑司が谷(現東京都豊島区)で生まれた石川雲蝶。本名は、石川安兵衛といった。江戸彫りの一流派石川流の本流門人であり、20代ですでに彫物師として名を馳せていたという。

雲蝶が越後入りしたのは、30代前半の頃。三条の金物商で、法華宗総本山・本成寺の世話役だった内山又蔵との出会いに端を発する。ちなみに「良い酒とノミを終生与える」が、越後入りを決めた理由だったとか。

越後三条を拠点に魚沼をはじめ、近隣各地で創作活動を始めた雲蝶は、後に内山氏の世話で三条の酒井家へ婿入り。名実ともに「越後の人」となった。

ひとつたびノミを握れば、彫りの鬼へと化し、作品と向き合ったという雲蝶。その妙技と才能は木彫りにとどまらず、石彫や絵画にまで及ぶことから「日本のミケランジェロ」と称えられている。

江戸に生まれ、越後で終えんを迎えた雲蝶の人物像は、三条の住まいをはじめ、菩提寺の本成寺が火災に見舞われ資料が焼失したことから、謎めいた部分が多い。それだけに、残された作品や逸話から、雲蝶像を紐解いてみるのも面白い。それを可能にするのも、日本のミケランジェロという鬼才が放つ、不思議な魅力なのだから。

石川雲蝶略年表

- 1814年(文化11) 雲蝶(本名「安兵衛」江戸雑司が谷に生まれる)
- 1845年(弘化2) 本成寺の世話役・内山又蔵の依頼を受け越後三条に入り、三条や栃尾で制作活動を開始する。後に三条の酒井家へ婿入りする
- 1852年(嘉永5) 3月11日、西福寺(開山堂)起工。大龍和尚と出会う
- 1853年(嘉永6) 40歳 長女なみ生まれる
- 1855年(安政2) 42歳 永林寺の制作に入る(13年の歳月をかけ多くの作品を残す)
- 1857年(安政4) 44歳 西福寺(開山堂)落成
- 1868年(慶応4) 55歳 戊辰戦争
- 1878年(明治11) 65歳 弁成和尚逝去
- 1880年(明治13) 67歳 三条が大火灾となり町の大半が焼け野原となる
- 1881年(明治14) 68歳 永林寺に再び入る
- 1882年(明治15) 69歳 大龍和尚逝去
- 1883年(明治16) 70歳 5月13日、雲蝶逝去

あきばさんじゃくぼうだいごんげん
秋葉三尺坊大権現

長岡市

火伏の神として名高く、「火伏日本総本廟秋葉三尺坊大権現」として多くの崇敬を集める秋葉神社。奥の院の社殿は、雲蝶と小林源太郎が8年の歳月をかけ彫り上げたという繊細な彫刻で埋め尽くされている。



所 長岡市谷内2-7-7
開 自由
料 無料
交 上越新幹線長岡駅からバス約1時間、北陸自動車道中之島見附ICから車約30分
☎ 0258-51-1195(栃尾観光協会)

たかのりじんじや
貴渡神社

長岡市

上杉謙信と深澤一巢守神社の境内に鎮座する貴渡神社は、栃尾織の基礎を築いた植村角左衛門貴渡まつ。雲蝶作品の見どころは、向拝の龍や社殿全体を埋め尽くす彫刻にある。中でも、養蚕の様子から機織りまでが彫られた作品は、かつて織物産業で栄えた当地の面影をしのばせる。



所 長岡市坂場(巢守神社境内内)
開 普段は施錠されているため要事前連絡
料 お賽銭として200円
交 上越新幹線長岡駅からバス約1時間20分、北陸自動車道中之島見附ICから車約40分
☎ 0258-52-3521
(坂場区事務所:9:00~12:00)
0258-51-1195(栃尾観光協会)

りんこうあん
林興庵

長岡市

新潟県中越大地震から見事に復興を遂げた曹洞宗・林興庵。この寺院の見どころは、築250年とされる本堂の須弥壇の左右にある獅子頭と手前にある左右の欄間の唐獅子牡丹。獅子頭は西福寺(開山堂)向拝の獅子頭と相似形。右側欄間には「彫工三條 匠雲蝶正照」の銘がある。



所 長岡市川口中山280
開 拝観の際は事前連絡が必要
料 お賽銭として300円
交 JR上越線越後川口駅から徒歩約30分、関越自動車道越後川口ICから車約6分
☎ 0258-89-2713(林興庵)

ぶつこうじ
佛興寺

新潟市

1880(明治13)年、新潟大火で本堂庫裡を焼失した佛興寺が本堂建立にあたり、縁あって向拝の「子抱きの龍」、内陣の「祈組(ますぐみ)の狼」、欄間など数多くの雲蝶作品を網羅。代表作品である千羽鶴ほか数点は寺寶殿に展示されており、雲蝶の神業的な妙技を間近で鑑賞できる。



所 新潟市中央区神道寺3-1-14
開 拝観の際は事前連絡が必要
交 上越新幹線新潟駅から徒歩約30分、磐越自動車道新潟中央ICから車約20分
☎ 025-244-4990(佛興寺)

ほんとくじ
本徳寺

燕市

旧吉田町の、のどかな田園にたたずむ法華宗・本徳寺。この寺院には、向拝部に対の獅子頭と波と亀の彫り物がある。特徴は、本堂に向かい右側の獅子頭の裏に雲蝶の署名が残されていること。長年風雨にさらされてきたことから、分りにくい、その反面、見つけたときの喜びは大きい。



所 燕市米納津1795
開 自由
交 JR越後線北吉田駅から徒歩約30分、北陸自動車道三条燕ICから車約20分
☎ 0256-93-2391(本徳寺)

じゅうにじんじや
十二神社

加茂市

約800年にわたり、加茂市七谷地区・土土倉を見守ってきた歴史を誇る十二神社。総ケヤキ造りの本殿をはじめ、向拝や左右の柱の上部、横木の先端などに雲蝶の類まれなノミさばきが見られる。また、脇障子には雲蝶の落款も見ることができる。囲いの外からのみ拝観可能となる。



所 加茂市土土倉地内
開 自由(普段は施錠されているため、囲いの外からのみ拝観可能)
交 JR信越本線加茂駅からバス約38分、北陸自動車道三条燕ICから車約40分
☎ 0256-52-0080
(加茂市商工観光課)

絵画・石彫にみる雲蝶の妙技

木彫りの名工・石川雲蝶。神がかり的なノミさばきで生み出された量感をあふれる作品は、言葉で失うほどに美しい。まさに、問答無用だ。しかし、雲蝶の作品は、そうした木彫りのものばかりではない。その類まれな妙技・才能は、「絵画」や「石彫」にも発揮されている。それが、「日本のミケランジロ」たる由縁でもある。ここでは、雲蝶が残した木彫りとほひと味違う作品を紹介。雲蝶のもうひとつの魅力に、より引き込まれること請け合いた。



鶏／欄間絵 錦鶏／欄間絵 梅に山雀／欄間絵

岩絵の具を使い、極彩色で描かれている欄間絵(板絵)。羽の1本1本までを写實的に描写した絵からは、雲蝶の絵師としての優れた才能をうかがい知ることができる。

寝牛・蛙／石彫

翡翠(ひすい)の原石に彫られた置物。蛙は当初、両手を前についた構図で彫り進めていたようだが、途中で折れてしまい、すぐさま今の胸に手をあてた構図に変更し仕上げたという。ちなみに、拝観者が「牛に触ってから蛙を触る」と拝観者がモーかってカエル。逆に「蛙に触ってから牛に触る」と、拝観者が帰ってから寺がモーかるのだとか。



月に群雲／書院障子

雲蝶が残した作品の中でも珍しい建具(組み物細工)。簡素な中にどこか優雅な雰囲気をかもし出しており、雲蝶の空間を演出するセンスの素晴らしさを垣間見ることができる。



蛇身鳥物語／天井画

2枚の欄間と1枚の板絵からなる3部作。天井画には、源頼政が蛇身鳥を成仏させるシーンが力強く描かれている。



13年の歳月をかけ本堂に施された作品
雲蝶の人物像にふれる逸話も興味深い



永林寺

魚沼市

約500年前に創建され、松平光長(越後高田藩主)の菩提所として本堂建築を認められると共に、葵の紋章を許された由緒深い曹洞宗の名刹・永林寺。
この寺と雲蝶との接点には、ばくち好きな雲蝶のイメージをほうふつとさせる逸話がある。それが仕事の依頼者である当時の弁成和尚との賭け勝負。「雲蝶が勝ったら金銭を支払い、弁成和尚が勝ったら永林寺の本堂二杯に力作を手間暇惜しまず制作する」というもの。この賭けに弁成和尚が勝ち、1855(安政2)年に雲蝶は永林寺を訪れた。
その後、13年という月日をかけ欄間をはじめとする彫工や絵画など100点を数える作品を手掛けた。中でも欄間に施された天女の透かし彫りはあまりにも有名。

天女／欄間

目細、鼻高、桜色という、当時の美人の要素を取り入れた透かし彫り。天女のモデルは、雲蝶があこがれた魚沼の女性とされている。



永林寺

<https://eirinji.jp/>

〒魚沼市根小屋1765

■ 9時～16時30分(4月～10月)、
9時～16時(11月～3月)

■ 中学生以上500円、小学生100円

■ JR上越線越後堀之内駅から徒歩約20分、
関越自動車道堀之内ICから車約3分

☎ 025-794-2266 永林寺

※季節・催事などにより変更する場合がございます。ご了承ください。 ※写真撮影はご遠慮ください。

石川雲蝶



新潟県魚沼市

ひかり
筆葉を奏でる天女(永林寺)